

平成30年度 分科会施策の管理シート

分科会名	長寿サポート分科会	会長	多田 敦彦
------	-----------	----	-------

重点項目	今後、新たに有効と考えられる施策	数値目標	【達成時期】平成30年度末 【目標値】出前講座増加。もりもり体操11団体増加。認知症ケアパス講座88か所。	分科会事務局	長寿支援課
------	------------------	------	----------------------------------------------------------	--------	-------

期 初(前年度末まで)	【施策名・概要】 【実行する内容】 いつ、何を、どのように 等	選定した理由 どのような必要性に基くのか 等	目指す成果 施策を実行した結果、どういった成果が現れる(水準、状態等を数値で)、その検証方法 等	期中(~9月)		期末(~2月)…進捗・評価は見込で可		次年度へ 課題、進捗管理継続の要否等
				分科会事務局 施策の進捗状況	分科会の意見 見直し、課題、助言等の内容	分科会事務局 実績及び成果に係る自己評価 評価	分科会の評価 達成度・成果について 評価	
1	地域介護予防活動支援事業の強化(住民主体の通いの場の確保) 高齢者の約1割の1,400人を目標に、概ね週1回以上開催する住民主体の通いの場等の活動を支援。元気もりもり体操に限定せず、介護予防に資する取り組みを支援するため町内会や地区社協等の組織と連携を図り、住民主体の通いの場の多様化を図る。	介護予防・重度化予防の仕組みと通いの場を身近な地域の中に構築し、元気高齢者を増やす必要がある。	介護予防に関する講演会の回数と参加者(148回3,818人)の増加。概ね週1回以上の開催を基本とし、介護予防に資する住民主体の通いの場27か所(約540人)を37か所(約740人)に増やす。					
2								
3								
4								
5								

- (注意事項)
- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
  - ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
  - ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行なうこと。評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
  - ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項				
------	--	--	--	--